

高齢化社会の進展に伴う

企業の人材確保への取組みについて、その展望

兵庫県 産業労働部 労政福祉課 雇用就労班長 中西 保智

はじめに

令和3年4月1日施行の「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」（高齢者雇用安定法）の一部改正により、65歳までの雇用機会確保の義務に加え、70歳までの就業確保が努力義務となりました。

少子高齢化が急速に進展し人口が減少する中、働く意欲がある高齢者は増加し続けています。総務省発表の令和6年版高齢社会白書による労働力調査を見ると、令和5年の労働力人口比率（人口に占める労働力人口の割合）は、65～69歳では53.5%、70～74歳では34.5%となっており、いずれも上昇傾向にあります。75歳以上も11.5%であり、平成27年以降上昇し続けています。このような状況が進む中、兵庫県がどのような施策により高齢者の就職支援を行っているのかご紹介します。

中小企業における労働市場

帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査（2025年4月）」によると、正社員の

人手不足を感じている企業

は51.4%あり、毎年4月

は新卒新入社員などの入社

によって人手不足割合が緩和

する傾向にあり、今年も

同様の動きがみられたもの

の、依然として半数を超える

結果となりました。また、

4月としては2023年と

同水準となり、過去最高と

なっています。女性やシニア

層の社会進出によって就

業者数が年々増加している

ものの、慢性化する人手不

足は、さらに深刻なステ

ージを迎えており、労働人口の減少や転職市場の活性化

化、働き方改革などにより、今後、企業はこれまで

での採用のやり方を見直す必要に迫られそうです。

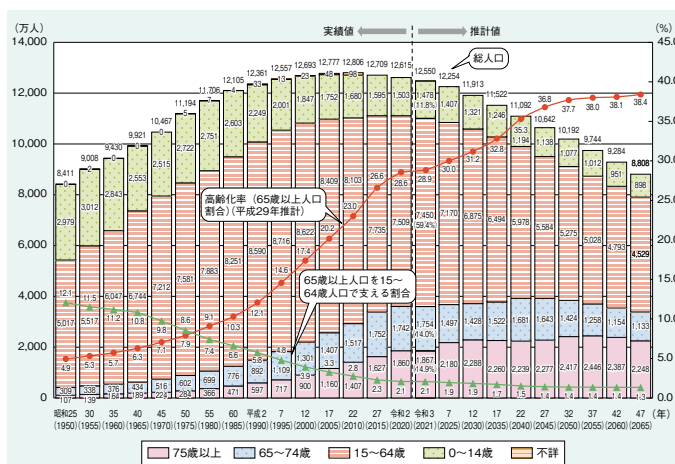
シルバー人材センターの活用

高齢者雇用安定法によると、シルバー人材セ



正社員・非正社員の人手不足割合 月次推移

出典：帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査（2025年4月）」



高齢化の推移と将来推計

出典：内閣府（2022）「令和4年版高齢社会白書」

ンターの業務は「臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業を希望する高齢者又は職者のために、就業の機会を確保し、組織的に提供すること」とされ、それを「希望する高齢年齢退職者のために、職業紹介事業を行うこと」とされています。

また、「高齢退職者に対し、臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に必要な知識及び技能の付与を目的とした講習を行う」など、地域の日常生活に密着した仕事を提供し、高齢者の就業機会の増大を図り、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とした事業を行っています。

兵庫県では、県内34のシルバー人材センターを指導・育成する（公社）兵庫県シルバー人材センター協会の運営を支援しており、高齢者の就業機会の確保を図っています。改正高齢者雇用安定法により65歳までの雇用機会確保が義務化されたことから、新規会員の獲得に困難を極める中、令和6年度には2万8752人の会員で329万6062人日の就業がありました。

高齢者就職支援窓口

ひょうご・しごと情報広場では、「ミドル・シニア世代就労相談窓口」を設置し、就労意欲のあるシニア世代（65歳以上）がライフスタイルや能力に合せて活躍できるよう、就労希望者のマッチングを支援しています。



高齢者就職支援窓口

は、これまでの職業経験を活かせるものばかりとは限りません。これまでの経験に固執して就職に結びつかない場合などには、キャリアカウンセリングを繰り返し行い、新しい仕事に向かうための準備をしてもらいます。令和6年度のミドル世代・シニア世代の就労相談は1452件あり、そのうち99件がシニア世代の相談で33件の就職がありました。

また、シニア世代向け就労相談のご案内するために「しごとの切り出し」を行っています。例えば、ある企業における一般事務職の一日の作業のうち、1〜2時間程度の単純作業や軽作業などを切り出し、高齢者でも働きやすい短時間勤務の求人を作り出しています。これにより企業の人手不足を解消しながら高齢者にも働きやすい時間帯でのスポットワークを提供しており、令和6年度には、37件87人分の仕事の切り出しを行いました。

淡路島マッチボックス

スポットワークといえば、デジタル技術を活用した雇用導入促進事業として、マッチングシステムを構築しています。企業側の短時間でも対応可能な業務の切り出しを促し、家庭の事情等による短時間勤務を求める女性や退職後の高齢者といった短期・短時間勤務などスポットワークの希望者とマッチングする「淡路島マッチボックス」の活用を促進しています。通常こうしたマッチングサイトやアプリでは利用者が若者に偏りがちで

すが、今回の「淡路島マッチボックス」では、行政が担っているということとその信頼度が増し、中高年齢者の利用登録も増加しています。

現在「淡路島マッチボックス」は、文字通り淡路島内での求人を対象に実施するモデル事業として運用しており、利用状況は令和7年4月末時点で登録者1533人、そのうち、60歳以上が194人で全体の12.7%を占めています（70歳以上は20人）。今後、対象地域が県下全域に広がることで、高齢者の就業機会の確保により一層つながることが期待されます。

おわりに

兵庫県では中小企業の人材確保に加え、高齢者向けにさまざまな就職支援を行っています。今後大企業を中心とした賃上げや新卒初任給の大幅な引き上げに追いつけない中小企業は慢性的な人手不足に陥り、「人手不足倒産」のリスクが増加することも予想されます。そのため新規採用者の雇い入れが進まない場合は、中途採用や仕事の切り出しによる高齢者等のスポットワークの活用を検討するなど、事業活動を円滑に進めるための人材確保対策を講じることが求められそうです。今後は、新卒採用に加え、社会経験が豊富な高齢者を戦力とした業務編成などについて、シルバー人材センターの活用やひょうご・しごと情報広場のシニア世代相談窓口における人材確保の相談、淡路島マッチボックスの活用もご検討ください。